

# 令和6年度 犬山市市民活動助成金 活用実績報告集

地域を元気に、まちを快適で魅力あるものにしていくために、  
市民活動団体が様々な事業を行った記録です。

はじめの一步部門:2団体

ひろげる部門:8団体

ふかめる部門:1団体



犬山市役所 地域協働課

# もくじ

令和6年度 市民活動助成金制度	…2
【はじめの一步部門】	
中島池周辺竹林整備(中島池 竹の会)	…3
レンゲ畑で遊ぼう(楽田桃色)	…4
【ひろげる部門】	
犬山産の竹を使ったワークショップで竹林整備を行い竹害から竹材へ (竹のwa INUYAMA)	…5
スクールサポート事業(スクールスマイルサポーターズ)	…6
子育て家庭を応援！第3回いぬやまワーク応援フェスタmeet×meet ～ママも子どもも、地元のシゴト&働き方と出会おう～ (特定非営利活動法人 にこっと)	…7
こぶらすフェス(coplus+)	…8
郷瀬川周辺クリーンアップ(郷瀬川清流会)	…9
マイクラ犬山城、建築中ー子どもたちがつくる「知ってびっくり、犬山城」ー (子どもマイクラ観光)	…10
犬山の生活史ーあつめ、つむぎ、まく(みんなのアーカイブ)	…11
生成AI 犬山市定着プロジェクト(犬山 生成AI実行委員会)	…12
【ふかめる部門】	
親子で里山体験・栗栖の魅力発見プロジェクト (栗栖こどもの国おさんぽマップ実行委員会)	…13

## 市民活動助成金 問合せ先

犬山市役所 地域協働課

TEL 0568-44-0349 FAX 0568-44-0367

Eメール 010410@city.inuyama.lg.jp

## 市民活動 相談窓口

犬山市協働プラザ

TEL/FAX 0568-48-1221

Eメール info@inuyama-plaza.com

# 令和6年度犬山市市民活動助成金制度

## 市民活動助成金 とは

「市民活動助成金」は、自主的・積極的なまちづくり、市民活動を促進することを目的として、地域を元気に、まちを快適で魅力あるものにしていく企画提案事業を募集し、その事業に必要な経費の一部を助成するものです。

市民から集められた税金と市民活動支援に対する寄附金から助成しているため、「市民活動」として行う事業の性質を理解することが求められます。

## 対象事業

- (1)事業内容 犬山市に対する公益的な事業
- (2)対象団体 犬山市に登録された市民活動団体
- (3)事業期間 交付決定日から令和7年2月28日まで
- (4)対象外要件
  - ・助成金が単に団体の運営経費に充当されると判断できる事業
  - ・特定の個人や団体のみが利益を受ける事業
  - ・政治、宗教に関する事業
  - ・単なる営利目的の事業
  - ・令和7年2月28日(金)までに完了しない事業
  - ・犬山市から他の助成、補助、委託等を受けている、または受ける見込みのある事業

## 助成部門

### 【はじめの一步部門】

- (対象)・活動を立ち上げて間もない団体が、初めて市民活動助成金に提案する事業
- (審査)基本的に書類審査のみ、企画提案発表会にて事業説明を求める場合あり
- (助成金額)総事業費の1/2まで、最大5万円
- (申請回数)1団体あたり1回まで

### 【ひろげる部門】

- (対象)・組織の拡大や活動の活性化など、団体の自立に向けたまちの魅力創出や地域の課題解決に取り組む事業
  - ・5人以上の会員がいる団体
- (審査)企画提案発表会にてプレゼン発表、各提案事業を審査
- (助成金額)総事業費の1/2まで、最大20万円
- (申請回数)同一事業の申請は、3回まで

### 【ふかめる部門】

- (対象)・団体の更なる成長・発展に向けた、地域社会の課題解決に取り組む事業
  - ・ひろげる部門で助成金の交付を受けた実績があり、かつ10人以上の会員がいる団体
- (審査)企画提案発表会にてプレゼン発表、各提案事業を審査
- (助成金額)総事業費の1/2まで、最大30万円
- (申請回数)同一事業の申請は、5回まで

事業名:中島池周辺竹林整備

団体名:中島池竹の会

## 予算(主な経費)

助成額 11,000円(総事業費 22,296円)

消耗品(ベニヤ板、コピー用紙、プリンターインク 等)

通信運搬費(切手、はがき 等)

## 目的

中島池周辺の竹林整備を行う。

また、自然学習や体験の場として提供するとともに、地域の景観向上に資する。

## 内容

中島池の南部にある竹林の整備として、下記の順序で年4回実施。

(徐間伐→柴垣手入れ→竹チップ作成→遊歩道の手入れ)

年間で、28名の会員が参加した。



## 結果

定期的に竹林整備を行ったことで、竹林環境の改善や、遊歩道の整備に繋がりました。

## 今後の取り組み・課題

市民の環境学習参加を拡大させていきたい。

また、竹林整備を継続することで、美しい竹林を形成し、維持していきたい。

事業名:レンゲ畑で遊ぼう

団体名:楽田桃色

## 予算(主な経費)

助成額 50,000円(総事業費 163,871円)

報償費(イベント出店)、消耗品(事務用品、景品等)、印刷製本費(チラシ印刷)、人件費(大学生ボランティア)、使用料(土地使用料)

## 目的

田園風景、里山景観、自然環境が残る楽田で、その素晴らしさと必要性を後世に遺し伝えるため、レンゲ畑でレンゲをテーマにした催事を開催する。毎年継続的に実施することで、人と人とのつながりの場、地域課題解決の場として定着を図る。

## 内容

5月に「レンゲ畑であそぼう！」を開催し、不安定な天候だったが800名以上の方にお越しいただき大成功となった。イベント開催後、次回開催に向けて、秋にレンゲ米の種まき、冬に大根定植を行った。



## 結果

目標の200名を大幅に上回る800名に来場いただき、レンゲ作付け農家仲間もひとり前向きに検討いただいている。

自然環境が残る楽田地区の素晴らしさと必要性を訴えることができ、多様な世代、国籍の方が集う場所を提供できた。

団体としてイベントとりまとめや小学校の授業補助などの依頼が立て続いた。

## 今後の取り組み・課題

ただ賑やかで人を集めるだけのイベントにならないよう、目的を見失わず活動する。もっと多くの方に足を運んでもらうための広報活動や、イベントが大きくなったときのスタッフとして、会員を増やす工夫などの人材確保も課題。

## 事業名: 犬山産の竹を使ったワークショップで竹林整備を行い 竹害から竹材へ

団体名: 竹のwa INUYAMA

### 予算(主な経費)

助成額 106,000円(総事業費 213,892円)

報償費(ワークショップ講師謝礼等)、旅費、消耗品(文具、材料費等)、印刷製本費(リーフレット等)、通信運搬費、保険料、人件費(ワークショップ、端材焼却等)

### 目的

古来より良質な竹の産地である犬山の特性や、日本文化や伝統技術について、竹うちわ等のワークショップや竹林整備イベントを通じて広く伝えていく。犬山と竹の歴史を知ってもらうことで、近所の竹林にも興味をもつきっかけをつくる。

### 内容

月2.3回の竹うちわ作りのワークショップを開催。5月のマルシェにうちわづくりのワークショップで出店、6月は真竹のたけのこ狩りで竹林整備体験を実施し、こども、大人含め15名の参加があった。9月は、他団体協力の元、竹細工ひご作り&編み体験ワークショップを行い、竹についての座学から、竹を割る実演も行った。



### 結果

竹細工の参加者から、4名が新会員になった。

また、竹を加工する技術を継承していくことで、加工した竹を販売するなど、活動の資金とすることもでき、少しずつ自立できる仕組みづくりができてきた。

犬山で活動している竹団体仲間に会員で手伝いをさせてもらい、他団体と協力することで犬山=竹のイメージが広がってきた。

### 今後の取り組み・課題

地域には竹林整備をしていきたいという方もまだまだいらっしゃるので、今後とも会員を増やしつつ、竹林整備の範囲も広げて活動していきたい。

他団体と交流し、高齢化が進み若手が不足しているとの話もあったので、若手が参加しやすいよう他団体の活動をPRし、参加者を増やせる仕組みづくりをおこなっていく。

竹林整備だけではモチベーションが上がらないとの話もあるため、楽しめるイベントの提案・企画を行っていく。

事業名: スクールスマイルサポーターズ

団体名: スクールサポート事業

## 予算(主な経費)

助成額 200,000円(総事業費 415,076円)

報償費(講師・デザイン謝礼)、講師旅費、消耗品(書籍、コピーインク等)、印刷製本費(チラシ印刷)、保険料、人件費(学校活動費、給食費等)、会場使用料 など

## 目的

地域の様々な大人たちが子どもたちの学校生活や学習をサポートすることで、発達障がい児や肢体不自由児がより豊かな学校生活を送ることができることを目指す。

## 内容

4月にマルシェを開催し、地域の人と交流を深めた。5月には、肢体不自由児の親子交流会を実施し、心配や不安が尽きないと、母親同士で共有した。10月、11月にはそれぞれ講師を招き、会員向けの勉強会を開催した。1月には講演会を開催したほか、通年で学校支援ボランティア活動や、SNSでの発信などを行った。



## 結果

支援する子どもは年々増え、来年度の継続の要望もあった。また、ボランティアミーティングは出席率が上がり、意見交換が行われたと同時に、会員同士が顔見知りとなった。講演会では、講演内容への関心が高く、51名の参加があった。講師が活動内容に共感してくださり、次年度も協力してもらえらることとなった。会員メンバーは新たに5名増え、即戦力として学校現場の支援で活躍している。

## 今後の取り組み・課題

学校支援ボランティアは、行政の事業として立上げられる予定であるため、団体としては、支援に関わる人向けの養成講座を開催していく。養成講座を毎年行うことで、特別支援教育の知識の大切さが重要とされることを願う。

また、支援者や母親のしゃべり場を継続して作ることで、おしゃべりの中から解決することもあり、支援機関につなげていくのも大切な役割だと思っている。

事業名:子育て家庭を応援！

第3回いぬやまワーク応援フェスタmeet×meet

～ママも子どもも、地域のシゴト&働き方と出会おう～

団体名:特定非営利活動法人 にこっと

## 予算(主な経費)

助成額 105,000円(総事業費 218,699円)

報償費(チラシデザイン)、消耗品(事務用品、参加賞等)、印刷製本費(チラシ・ポスター)、人件費(年間・当日運営謝礼)

## 目的

子育て中の女性が働き方を相談ができる窓口が少なくなっているため、女性・家族と地域の事業者が直接コミュニケーションをとれる場を設けることで、様々な情報を知ることから、犬山での選択肢を増やしていける場を目指す。

## 内容

運営会議で、出店事業者の決定、会場の打ち合わせ等を行い、1月26日(日)に市民健康館でイベントを開催した。

①地元のシゴトを親子で遊びながら知るコーナーと、②働くにあたって心配・ギモンを相談するコーナーを用意し、それぞれ①150人、②17人の参加があった。



## 結果

子どもたちは職業体験やクイズを通じて仕事を身近に感じ、保護者は地域企業の取り組みを知る機会となった。

また、地域事業者と住民が直接交流する機会が生まれ、気軽に話をする機会となり、質問もしやすいようだった。在宅勤務をしている人の話を直接聞くことで、前向きな気持ちを持つ参加者もあり、キャリア形成のきっかけを提供できた。

## 今後の取り組み・課題

事前打合せが不足した出展者があったり、1人でブース対応する出展者もみられたため、事前説明の強化と、早めの準備をお願いしていく。

また、子ども連れの親の多くが、結果的に「子ども優先で参加」しており、母親自身が仕事を知り、地元企業とつながる時間が十分に取れない状況があった。今後は事前の案内資料やSNSを活用し、参加方法を明確にする工夫が必要だと感じた。

事業名:こぱらすフェス

団体名:coplus+(こぱらす)

## 予算(主な経費)

助成額 200,000円(総事業費 491,637円)

消耗品(景品等)、印刷製本費(イベントカード、団体紹介冊子等)、活動保険料、人件費(各種イベント当日スタッフ)、使用料(会場使用料) など

## 目的

新型コロナをきっかけに地域とのかかわりが希薄になっている現状から、他地域、多世代との交流の場を作り、子どもの社会性を育てるとともに、親、祖父母世代の方々も互いにコミュニケーションをとることで、地域に根差した人間関係を築く。

## 内容

年間で5種類の催事を開催。(7月:夏祭り、8月:アートフェス、なぞ解きイベント、11月:親子運動会、12月:クリスマス)

夏祭りでは子どもが接客を行ったり、会員の得意を活かした装飾、おばあちゃん会員による絵手紙教室を実施するなど、各回充実したイベントとなった。



## 結果

年度途中から会員のリストをやめ、LINE会員へとシフトしたため、会員数は伸びなかったが、LINEの登録者は152人になった。興味をもってくださる方に手軽に確実に情報を届けられるようになった。

なぞ解きイベントでは、NPO法人こどもサポートクラブ東海さんに協力させていただいたことで、チラシを市内小学校に配布でき、これまでと違った方たちにも興味をもっていただけた。

## 今後の取り組み・課題

今後も継続することで、さらなる認知と集客につなげ、よりたくさんの方にご参加いただき、よりよいコミュニティを目指す。

課題は資金面である。気楽に関わってもらえるよう、役割を設けないスタンスをとっているため、協賛をいただいて開催が義務化すると、負担になることを懸念している。

事業名: 郷瀬川周辺クリーンアップ

団体名: 郷瀬川清流会

## 予算(主な経費)

助成額 80,000円(総事業費 168,478円)

消耗品(ローラーカッター替刃、ガソリン、コピー用紙など)、印刷製本費(団体チラシ代)、ボランティア保険料

## 目的

ホタルが舞い戻る環境を目指し、城下を流れる郷瀬川周辺のクリーンアップとして、河川敷、堤防沿いのゴミ拾いや除草、カワニナの放流などを実施する。

## 内容

ごみの収集、ポケット公園の管理(除草、花の手入れ)を月3回、通年で実施。新会員の募集のためチラシを作成(2,000部)し、会員が戸別訪問で配布した。ホタルの餌となるカワニナは、友人から提供を受け、水槽にて増殖し、3月に郷瀬川へ放流した。



## 結果

5月から2月までの10ヶ月活動した結果、28回の活動と、延べ204名の人員を動員できた。収集ゴミについても、可燃ゴミ94袋、不燃ゴミ26袋の計120袋を集めた。新規会員募集にあたり、チラシを作成し戸別配布した結果、新規に2名の会員が入会する結果となった。

郷瀬川堤防の除草は、5月と11月の2回実施した。

## 今後の取り組み・課題

今後も継続的に活動を行い、郷瀬川の美化に努めたい。会員の高齢化と新規会員の確保が課題である。

事業名:マイクラ犬山城、建築中。

—子どもたちがつくる「知ってびっくり、犬山城」—

団体名:子どもマイクラ観光

予算(主な経費)

助成額 160,000円(総事業費 667,046円)

報償費(撮影、動画編集)、印刷製本費(告知用チラシ)、入場料、イベント保険料、人件費(事前準備、当日運営等)、使用料(マイクラフト関連、施設使用料等) など

目的

犬山城をマイクラフトで再現し、国内外に魅力を伝えるプロジェクトを実施することで、子どもが主体的に学び、それを地域の大人がサポートするまちづくりの学習機会を実現する。

内容

犬山市内の小学生を対象として、マイクラフトで犬山城の建築から同時プレイによる交流まで行うイベントを①企画②調査③建築④告知の4段階で実施。小学生が地元の大人から犬山城について学び、マイクラフトで表現するということを実践した。実施内容は動画やサイトにまとめ、学校関係者や保護者へ発信した。



結果

参加者47名(延べ179名)、協力者15名、動画の閲覧者数は275名となった。子どもたちの主体的な学びの姿勢が見られ、マイクラフトが単なる遊びではなく、学びのツールとしての可能性を実感することができた。また、オンライン環境でのマナーや意思疎通の重要性を学ぶ機会にもなり、デジタルツールを通じた教育的効果が確認され、次回以降の活動への期待感も高まっている。

今後の取り組み・課題

令和7年度は、今回の経験を踏まえ、より地域に密着した学びの場を提供するとともに、地元の文化や歴史を深く理解する機会を増やしていく。また、中高生による運営委員会の結成により事業構築を学ぶ機会をつくるなど、多様な学びのスタイルを提供する。ゲームを教材として活用することに対して、一部関係者からは理解を得ることが難しいという課題があるため、次回以降は参加者の作品や学習過程を紹介する場を設け、保護者や地域の方々にも理解を深めてもらう取り組みを強化していく。

事業名:犬山の生活史－あつめ、つむぎ、まく

団体名:みんなのアーカイブ

## 予算(主な経費)

助成額 200,000円(総事業費 869,193円)

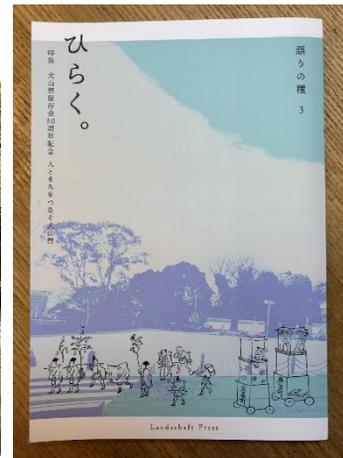
報償費(イベント協力謝礼)、協力者旅費、印刷製本費(パネル、冊子)、通信運搬費(切手等)、人件費(インタビュー、編集、デザイン等) など

## 目的

公共的な出来事として残らない犬山の昔を知る人の知恵、記憶を、このまちのかけがえない文化資源・遺産として保存し、人と人との新たな出会いを生み、未来へと伝える試み。

## 内容

12人の方にインタビューを実施し、犬山祭に関する語りをまとめた聞き語り冊子「語りの種3 犬山祭特集」を制作した。11月30日に、桃太郎神社に「忘れものセンター 桃太郎出張所」を開設し、桃太郎公園の昔についてのパネル展示と、「忘れものの記憶」を記録・収集、閲覧できるコーナーを設置した。



## 結果

当初記憶の聞き取りは6人を予定していたが、12人に増えた。記憶アーカイブに関心をもつ担い手として3人の協力者を得ることができ、新たな記憶を発掘した。11月のイベントは、秋祭りに合わせて開催することで祭り参加者を多数見込んでいたが、秋祭りが行われなくなったため、イベント参加者は30名、「語りの種」シリーズを手にとってもらう方は50人となった。

## 今後の取り組み・課題

記憶の聞き取りを続け、記憶アーカイブを充実させる(犬山地区だけでなく、羽黒、楽田地区等も含める)。地域団体、高齢者施設や記憶、アートを通じた活動に興味を持つ人たちとの連携をすすめる。

記憶は残っても、写真プリントや8ミリといった物理的資料の散逸、消失とアーカイブの点在化でアクセスしづらいことが課題である。

## 事業名:生成AI 犬山市定着プロジェクト

## 団体名:犬山 生成AI実行委員会

## 予算(主な経費)

助成額 140,000円(総事業費 349,918円)

報償費(当日スタッフ)、当日スタッフ旅費、消耗品(配信機材等)、印刷製本費(チラシ、ポスター等)、通信運搬費(Wi-Fiレンタル)、使用料(会場、機材レンタル) など

## 目的

AIの基礎知識と応用方法を犬山市民に普及し、最先端技術を得られる機会や、新規事業開発ができる人材を育成する。また、市民がテクノロジーの進展に柔軟に対応できるように支援し、持続可能な社会を作る。

## 内容

生成AI EXPOin東海の一部として、11月に市民交流センターフロイデにて生成AI EXPO in犬山を実施。オンラインとオフラインによる勉強会及び講演会、いぬやまe-コミュニティネットワークの教室で生成AIのワークショップを実施した。犬山会場への参加は300名、内犬山市民は60名で、具体的な連携協定を3件発掘した。



## 結果

第2回となる今回も、前回と同等の参加があり、犬山市民の興味はとてもあることが分かった。また、イベントに登壇した企業を通じて犬山の生成AI活動に興味を持った犬山市民も出てきた。

当初参加を予定していないフロイデの別教室で勉強会をしていた子どもたちが6名参加しワークショップを体験した結果、興味を持ち、保護者も含めて参加があった。

## 今後の取り組み・課題

会場使用料が有償となったことや、印刷代金の高騰、規模が大きくなった結果によるスタッフの増加、設備の老朽化による消耗品費用を購入という予想外の内容も多かった。その結果、調整が多くなり、市民への周知活動が遅れることや、犬山市民のイベントであるように見えなくなってしまった。

今後は、事前に価格やイベント設備の確認をさせてもらい、規模も小規模に変えることで、犬山市民への認知活動にもまだ伸び代はあるように感じた。

## 事業名:親子で里山体験・栗栖の魅力発見プロジェクト

## 団体名:栗栖子どもの国おさんぽマップ実行委員会

### 予算(主な経費)

助成額 48,000円(総事業費 97,848円)  
 報償費(講師料)、消耗品(着火スティック、針金、花火等)、  
 使用料(キャンプ施設、会場、薪等) など

### 目的

親子間での体験をテーマにした四季折々のプログラムを地域住民とともに実施し、栗栖ならではの子育て環境の良さの体験から、栗栖地区への移住定住促進を目的とする。

### 内容

8月に栗栖地区の児童、栗栖に興味のある親子を対象にキャンプを2回開催し、36名の参加があった。10月には栗栖地区の児童、栗栖に興味のある親子を対象に森のワークショップを行った。

また、6月に三好市で開催された「子どもの居場所まちづくり」への参加をきっかけに、栗栖地区における子ども支援や地域コミュニティの在り方についての議論が始まった。



### 結果

栗栖小学校の魅力について、多くの前向きな意見が集まり、発信の重要性が確認された。行政・教育機関との連携が強化され、栗栖地区の教育環境向上に向けた基盤が整った。

来年度に向けた新たな取り組みの基盤を構築し、今年度の課題を踏まえてより効果的な周知方法や移住希望者のニーズ把握を強化する方向性が明確になった。

### 今後の取り組み・課題

視察や対話の成果を活かし、栗栖地区に適した子ども支援の形を具体化しながら、子ども権利条約の策定に向けた議論を進めていく。また、広報・イベント企画を見直し、より効果的な施策として再構築することで、児童数の増加や移住促進に向けた取り組みを推進していく。

また、多世代交流の場の創出が十分に進まなかった点を改善し、地域全体で子どもを支える仕組みを強化していく。